

麗和 サッカークラブニュース

Vol. 31

平成 23 年 9 月 24 日発行 発行人 麗和サッカークラブ会長 星野 隆之

「第 11 回 浦和四校サッカー部OB交流戦」

- 1 期 日 平成 23 年 10 月 23 日 (日)
- 2 会 場 埼玉県立浦和西高等学校
- 3 集 合 8 時 00 分
- 4 開会式 8 時 15 分
- 5 試合開始 8 時 30 分 0-35 浦高 VS 0-35 浦和南
9 時 30 分 0-50 浦高 VS 0-50 浦和南
以後 勝敗によって決定
- 6 懇 親 会 14 時 00 分
さいたま市民会館うらわ (ロイヤルパインズ裏)

※ 10 時 30 分、11 時 30 分に浦和西高女子チームとのエキシビジョンマッチ (60 歳以上)。

※ 西高会場は駐車場が殆んど有ませんので、公共交通機関をご利用ください。

※ 懇親会のみのお出席も大歓迎です。

※ 35~49 歳チームは 4 連覇がかかっています！ 頑張りましょう！！

総会報告

会長 星野隆之

協議題

- (1) 平成 22 年度 事業報告・決算について —承認—
- (2) 平成 23 年度 事業計画・予算について —承認—
- (3) 災害義援金について
「サッカーの復興に役立てる支援」に決定。特別会計から 10 万円支出。
支援先は、役員会に一任する。
- (4) 役員改選について (全員再任) 2011~2013 —承認— 別記

報告事項

- (1) 中途入会会員について 浜田清一 氏 (18)
- (2) 現役報告
- (3) FC レイワ報告

『現役支援・OBの親睦』を 2 本の柱として、今年度は「OBの事業参加人数の拡大」「会費納入の人数増大」「FC レイワ に若手 OB 加入推進」を目標にいたします。ご理解、ご協力をお願いいたし

ます。

総会后 日本サッカー殿堂入りされた **浅見俊雄氏**（高 7 回卒）にささやかな記念品をお渡しした後に講演をいただき、現役 70 余名（トップチームは試合の為不参加）、OB30 余名が拝聴しました。特に現役には「指導者に与えられるだけでなく、自分で、自分達で考え研究して練習、試合を行いなさい。」と、体験を通した貴重なアドバイスをいただきました。なお、**日本スポーツグランプリ**を受賞された **原田 宏氏**（中 39 回卒）は所要のため欠席されましたので、記念品をご自宅に贈らせていただきました。

災害義援金について

総会の意向を受け、宮城県名取市在住の **島村弘宗氏**（高 35 回卒国立病院機構仙台医療センター外科部長）を通じ「**宮城県サッカー協会**」へ義援金をお渡ししました。詳しくは島村氏の寄稿文をご覧ください。

お祝い

吉川五郎氏（中 38 回卒）・**原田宏氏**（中 39 回卒）が「**日本サッカー協会 90 周年記念表彰**」を受けられました。長年にわたり、日本のサッカー発展の為尽力されたことが評価されたものです。おめでとうございます。

本クラブの副会長 **長島猛人氏**（高 21 回卒）が「**第 60 回 読売教育賞**」最優秀賞を受賞されました。この賞は全国で優れた業績をあげた個人や団体に贈られる賞で、氏は 30 年間にわたる漢文素読が「知的な自信を与えた」と評価されて「**国語教育部門最優秀賞**」に輝きました。皆さんの中にもこの素読会に毎朝参加して「知的な自信」を得た方もいるのでは、。おめでとうございます。

会費がピンチ

今年度の目標に掲げたとたん、8 月末までの会費納入状況が例年よりも下回ってしまいました。忘れている方、よろしく願い申し上げます！！

新役員

会 長 星野隆之 (14)

副会長 持田正義 (16)

長島猛人 (21)

幹事長 宗久信男 (27)

会計幹事 矢野武史 (40)

監 事 石川和雄 (14)

特別幹事 外處光一 (12)

柴田宗宏 (17)

岡部政樹 (42)

持田健生 (30)

幹 事（役員会で決定）

塩野 潔 (16)

松村道彦 (27)

田口智雄 (31)

原 昭彦 (38)

馬場一浩 (43)

斎藤龍馬 (49)

堀 達也 (55)

利根川宣保 (21)

村井 満 (30)

荻野清明 (33)

今村嘉宏 (40)

中村寿志 (44)

谷 直樹 (49)

田中洋平 (58)

吉田 努 (22)

小林利成 (31)

駒崎源喜 (37)

中禮 宏 (42)

渡辺隆正 (48)

杉田公二 (52)

※敬称略 () 内高校卒業回

転居等で住所が分からなくなった会員が増えております。同期の方たちで、お分かりになる方は下記の担当者にメールまたは FAXにてお知らせください。また、ご自身の転居の際も当会へのご通知、

名簿担当 宗久 信男

FAX 048-875-8075

OB 会長 星野 隆之

国立病院機構仙台医療センター外科
島村弘宗（高35回）

2011年3月11日午後2時46分、大災害は始まりました。勤務中だった私は、尋常でない激しい揺れに翻弄されつつ「こりゃ当分家に帰れないな」と逆に腹をくくり、院内に急遽設置された“災害対策本部”に向かいました。当院は災害拠点病院に指定されており、地震による怪我人が続々と搬送されてくることが予想されたからです。

案の定、ショッピングセンター内で落下物によって骨盤骨折を負った患者を皮切りに数名の重症患者が運ばれてきました。当日から翌日にかけてはいわゆる野戦病院の様な状態でしたが、内心「重傷者は思ったほど多くないな」という印象を受けていました。それもその筈、救急隊によって救出されたであろう多くの怪我人は、怪我をしなかった人々もろとも津波に持っていかれてしまったのですから…

津波から救助された患者も搬送されてきたので、津波が起きたという情報は入ってきました。しかし、こんな未曾有の大津波が襲ったとは夢にも思っていませんでした。地震直後の自家発電による病院の電力は医療機器の維持に回されたため、実は救急の現場では暫くテレビを見ることができなかつたのです。テレビに現れたあの恐ろしい映像に背筋が凍ったのは地震発生から数日たった後でした…

電気が復旧して数日後のある夜、一本の電話を妻が受けました。「浦和高校サッカー部のOB会長という方から」と言うではありませんか。星野会長から直々に安否確認のお電話を頂いたのです。インターネットが使えるようになり、日本や米国の友人から安否を問うメールが殺到し、心配してくれる友は有難いと思った次第ですが、サッカー部の後輩を慮って直接電話をかけてくださった浦和サッカー部OB会のこまやかさには感動いたしました。

震災前に“OB総会”の案内が届いていましたので、「今回は何とか出席してお礼を述べねば」と予定をやりくりして、6月12日に浦和を訪れました。OB戦の汗も乾かぬうちにOB総会が始まりましたが、その場でまたしても驚かされました。被災地からの報告ということで私に発言の機会を与えて頂いた後で、何と「浦和サッカー部OB会として義援金をおくる」という動議が出され、満場一致で承認されたのです。本当に有難いことです。

どのようなかたちで義援金をおくるか…「ただの寄付では“浦和サッカー部”が見えなくなる」ということで、赤十字社等への寄付以外の方法を探ることになり、仙台にいる私が橋渡し役を仰せつかりました。「サッカー部で集めたお金はサッカーのために使われるべき」との趣旨に則り、宮城県サッカー協会への寄贈を考えていたところ、またまた驚きが…星野会長が持田幹事とともにマイカーで直接手渡しに来る、というのです。

7月24日、仙台に到着した星野会長のプリウスに私も乗り込み、「先ず被災地を見たい」とのご希望でしたので、仙台空港付近から更に東松島市に向かいました。無残に崩れた家屋や瓦礫の山を目の当たりにし、一同絶句…。その後、宮城県サッカー場内にある宮城県サッカー協会を訪れました。協会専務理事がいらしたので、星野会長から直接義援金を手渡すことができました。宮城県の被災地ではサッカー用具のみならずゴールまで流された地域もあるそうですが、行政は被災者の生活を立て直すのに精一杯でサッカーまで手が回りません。しかし、浦和レッズをはじめJリーグの選手たちが被災地でサッカー教室を開いている映像をテレビで見れば、特に子供たちにとってサッカー環境の復興は彼らが成長していく上で必要不可欠だと感じます。従って、今回の様な“サッカー義援金”は協会としては大歓迎のことでした。

更に驚いたことに、個人的に義援金をおくりたいという方も現れました。飯塚章先輩（高 10 回卒）

です。「盛岡に行く途中に仙台に寄るので義援金を直接渡したい」との申し出。私が勤務のために病院を離れられないと知るや、直接当院まで出向いてこられたのです。そのバイタリティーや畏るべし…お預かりした封筒（開封していないので中身は何か判りませんが）はそのまま宮城県サッカー協会にお届けしました。

被災地には全国から様々なかたちで復興支援が行われていますが、このようなサッカーを通じた復興支援というのもサッカーファミリーだからできる有意義なことだと思いますし、“サッカーを通じた絆”につながっていくのではないのでしょうか。今回の義援金で終わりではなく、継続したサポートが大切だと思われましますし、OB 会でも何らかのかたちで支援を続けていくとのことでした。

今回の大震災を機に我が浦高サッカー部 OB 会の凄さを再認識いたしました。私も、微力ながら、サッカーを通じた絆のために今後も貢献していきたいと思えます。浦高サッカー部 OB 会の皆様、有難うございました。

高校選手権予選を終えて

サッカー部 監督

松村 道彦(高 27 回)

去る 8 月 22 日、3 年生にとっては最後の公式大会である高校選手権一次予選が行われました。相手はこのブロックのシード校である成徳深谷高、2 年前のインターハイ予選の準々決勝で延長の末 1-0 で勝利して以来の対戦でした。このところ安定した力を維持し粘り強さが身上のチームで、シンプルに前に前にロングボールを多用するプレースタイルです。浦高は中盤を制していても、縦に早くロングボールを入れてくるチームに脆いところがあり、これまでも単純な一発のロングパスから失点するケースがありました。この夏合宿では、攻撃時の最終ラインのポジショニングとロングボールへの対応を確認し、大会前のトレーニングのフォーカスポイントとしました。

序盤から相手は予想通りロングボールを多用してきましたがその点是对応できていました。しかしリスタートから一瞬の隙をつかれ失点し、ロングシュートも決められ前半で 3 失点。後半はこれ以上失点を防ぐという意識ではなく点を奪うこと、いつもの自分たちのサッカーをすることを確認して臨みました。ボールを動かしリズムを掴みましたが粘り強い守りに一点の遠いゲームでした。逆に相手の思い切りの良いミドルシュートが DF に当たりコースが変わり、またもや失点し、0-4 というスコアで完敗しました。今年の 3 年生は 31 名の部員が最後まで練習に励み勝利を目指しました。きつい要求にも声を出しながら頑張る彼らに、良い思いをさせてやれなかったことに責任を感じております。

OB の皆様には、良い結果を報告できず誠に申し訳ありません。夏合宿では星野 OB 会長様、大学生の若手 OB 浅子翔平(62 回)、田中修人(62 回)、藤井優樹(62 回)の 3 名にご指導いただきました。また、OB 会費から多大なる現役支援金をいただきました、この紙面をお借りして御礼申し上げます。現在は 2 年生 29 名、1 年生 43 名、合計 72 名で、3 年生の意志を継ぎ、大変高い集中力で新人戦に向けてトレーニングしております。OB の皆様に良い報告ができるよう頑張りますのでご指導よろしく願いいたします。

新主将となって

サッカー部主将 東野 芳仁

浦和高校サッカー部主将に就任した東野芳仁です。サッカー部に入部してから 1 年 5 カ月が経ち、今まで先輩方がしていたように自分たちがチームの中心となって活動することになりました。サッカー部は現在、「11 月から行われる新人戦で県大会に出場し、ベスト 8 以上」ということを目標に掲げて日々練習に励んでいます。顧問の先生や OB の方々、応援してくれる人たちへの感謝を忘れず、また、周り

からの期待に応えられるよう頑張っていきたいと思います。

これからも浦和高校サッカー部の応援をよろしくお願いします。